

産学研究成果を報告

地崎道路

地崎道路は6月25日、北海道千歳市のANAクラウンプラザホテル千歳で施工技術発表会を開いた。写真。検温、消毒の徹底など新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に万全を期した上で約70人が参加し、現場部門から5人、管理部門から1人が施工事例の紹介や現場での創意工夫、新技術の活用への取り組み、働き方改革の推進と今後の課題についての論文を



発表した。

施工技術発表会は、施工技術の蓄積と全社への展開による技術レベルの向上、技術の継承を目的に1998年から毎年開いており、ことしで23回目となる。

今回は、2019年11月から3月まで北海道千歳市内の主要市道7路線で同社と東京農業大学が実施していた、簡易路面平坦性測定装置「ACTUS」による路面計測の実証試験成果についても発表。低コストで高頻度な調査をすることが可能で、有効性が極めて高いことが証明されたと報告した。

「ACTUS」は、北見工業大学の大学発ベンチャー企業などが開発した加速度計を使った簡易路面平坦性測定装置。地崎道路と北見工大、東京農大の3者は、19年11月に「地方自治体の道路維持管理業務を支援する新たなシステム開発」の産学協同研究に基本合意している。「ACTUS」で測定したIRISH（国際ラフネス指数平坦性）に基づいて路面性状を調査し、その計測データを山崎元也東京農大教授がつくった舗装管理システムによって地方自治体の工事完成図と連携させ、道路管理業務のさまざまなシーンでの活用を可能とするシステムの開発を目指している。

